

個別研修（末永 美紀子）

## 研修テーマ：訪問看護師の地域ケア・他機関との連携・チームの自主運営について学ぶ

### オランダ：Buurtzorg（ビュートゾルフ）－3

ビュートゾルフでの訪問看護の研修の他、ビュートゾルフの看護師チームが地域での必要性を感じてプロジェクトとして建設したホスピスと一時的滞在施設（レスパイトケア施設）を訪ねた。

ホスピスが1階、レスパイトケア施設が2階になっている。地方自治体の資金を得てビュートゾルフが建築し、1階と2階がそれぞれのチームとして自主運営している。こうした施設の必要性を訪問看護師チームが本部にプロジェクトとして伝えると、本部から予算がつき、Buurtzorg（オランダ語で「地域ケア」の意味）そのままに実現できる仕組みが整っている。

デンハーグ郊外のこの施設は2018年に開設したばかりだが、他にもビュートゾルフによる同様の施設がオランダ国内には7箇所ある。



入口でホスピスとレスパイトケア施設に分かれている。



レスパイトケア施設の共同ダイニング。  
個室で食べることもできるが、看護師や介護士、療法士以外にも「快適スタッフ」という意味の名称で呼ばれるスタッフが複数配置されており、話し相手や下膳、茶菓の準備など、利用者が快適に過ごせるような手伝いをしている。



夫婦や家族でも利用できる2人部屋。1人用個室もある。個室には全て介護者がいっしょに入りやすい、大きめのシャワールームとトイレがついている。ふだんは自宅で家族や訪問看護師のケアを受けて生活しているクライアント（患者さん）で、レスパイトケア施設の利用を躊躇っている場合でも、最初に何度か家族と一緒に泊まりに来てみる、といったこともできる。

原則6ヶ月間、再延長でさらに6ヶ月間の利用を限度としていて、平均2週間程度の利用が多い。その間に、作業療法士が自宅を訪問して改装や器具の導入の提案を行ったり、家族がバカンス（オランダでは2〜3週間程度）へ出かけたりできる。

ビュートゾルフの看護師自身も「良いケアをするためには休むこと、楽しむ休暇が必要」ということを共通理解しており、介護する家族にもこうした施設を利用して休んだり楽しんだりすることを勧めている。



特に大きめの介助器具や車椅子が必要な人向けの1人個室。写真に写っている以外にもベッドやトイレ・バスルームがある。

バルコニーで好きなタバコを一服するクライアントも多い。

施設の近くには公園やショッピングのできる場所もあり、街全体も坂道がほとんどないので、車椅子や歩行補助具での外出もしやすい。





オランダ中部のチームでの実習の他、都市部でもあるハーグ郊外の2チームでも研修をさせていただきました。

オランダでは訪問看護も自転車が主流。創傷の手当や医療的ケアがある場合でも、クライアント宅に交換物品や消毒剤は全て揃っているため、訪問看護師の荷物は、クラウドデータ確認や入力のためのタブレットと必要最小限の物品のみ。

訪問先は、一戸建て住宅、アパート、高齢者用住宅などさまざま。玄関まで傾斜の急な階段があるアパートも多く、住宅内の階段も日本のものよりも急で狭い傾向がある。階段昇降用のイスとレールを取り付けていることも多い。

クライアントの重症度もさまざまで、寝たきりだったり重度の創傷を持っていたり、難病、認知症や脳血管障害の後遺症を持ちながら、ひとり暮らしをしている人も多い。

訪問看護は朝 8 時ごろから始まるケースが多く、老老介護のご夫婦やひとり暮らしの高齢者を訪ねて、デイサービスのお迎えまでに、シャワー、更衣、身支度、簡単な朝食、内服薬の介助などを行うことも多い。

たとえ自力で座位を取ることも難しい方であっても、保清をし、日中は介助機能のついたイスに座って過ごせるように援助している。服装も、女性はブラウスとスカート、男性も Y シャツにネクタイにベルト付きズボン、アーティストであればお好み通りに左右色違いの靴下に靴といった、その人らしい服装を整えられるように援助している。その人らしい身なりが整えられていることで、ホームヘルパーや友人が訪問してきても、安心して自宅に迎え入れることができる。

Buurtzorg では、このように「身体的、精神的、社会的にも良好な状態」になるように、本人や家族の希望も入れながら、きめ細やかなケアを提供している。

Buurtzorg チームはチーム毎に自分たちで事務所の立地を選ぶように促されるが、障害者のデイケアサービスと同じ建物内や、公立の地域福祉センターの向かい側など、クライアントが利用したり、Buurtzorg チームが連携しやすい立地を敢えて選んで事務所を構えていることも多い。

案内して下さったエリカさんと。





全てがクラウド上に保管されているので、どの事務所でもコンピュータはラップトップ 1 台程度。印刷保管もしないので、プリンターも家庭用の小さなもので済み、書類棚は 1-2 台程度。

事務所にもお花や絵が欠かせない。  
コーヒーやお茶の用意も必須。



事務所の中心には看護師たちのテーブル。ダイニングテーブルのようなものを使っているチームも多く、くつろいだ雰囲気でありながら、適確な情報交換や真剣な議論も行われる。